

令和6年度 大阪府立羽曳野支援学校 第2回 学校運営協議会

開催日時	令和6年12月13日（金） 10:00～11:30
開催場所	本校 図書室
出席者	大堀委員、亀田委員、中條委員、平賀委員、前田委員
出席者	東野校長、岩田教頭、井川教頭、嶋本事務長 和田首席、松山首席、大林首席
傍聴者	なし
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会次第 ・ 学校運営協議会実施要綱 ・ 委員、事務局名簿 ・ 令和6年度 学校経営計画 ・ 校内プロジェクト事業1、2活動報告 ・ 令和7年度教科用図書選定理由書 ・ 学校案内リーフレット
備考	

議事等（次第順）	
1	学校長挨拶
2	学校見学
2	【報告】
	①学校教育自己診断について
	②これまでの活動の様子について
	・ オンライン校外学習
	・ オンライン修学旅行
	・ 各分教室の様子
3	意見交換
4	【連絡】
	①学校運営協議会の運営に関する要綱等の改正について
	②第3回学校運営協議会の日程について
5	閉会のあいさつ

協議内容・連絡報告事項等

【報告】

①学校教育自己診断について（岩田教頭）

実施対象は、これまでと同じ、児童生徒、保護者、医療関係者、教職員の4者。

実施時期と期間は、児童生徒と保護者は6/26（水）～11/1（金）の間に、医療関係者と教職員については、10/16（水）～11/1（金）の間に実施した。

実施方法は、保護者と医療関係者については、アンケート用紙の配付、児童生徒と教職員については、Google form に入力して回答する方法をとった。

今年度の傾向としては、各項目で「そう思う」の割合が増加したことが挙げられる。特に児童生徒、保護者にその割合が多かった。また、今年度も児童生徒対象の主要項目である「学校に行くのが楽しい」と「授業が分かりやすい」の高評価が続いており、この2項目の肯定的回答のうち「そう思う」の回答は、いずれも前年度比で10%以上向上している。医療関係者からの回答では、項目4「学校は医療関係者と地域校をつなぐ役割を果たしている」と項目8「学校は、いじめについて困っていたら真剣に対応してくれると思う」の否定的回答が少し増えている。また、教職員の評価は高いが、児童生徒の評価は高くない項目が複数見られた。そのうちの一つに「キャリア教育」についての項が挙げられます。教職員の否定的回答が7%であるのに対して、児童生徒は同項目で38%の否定的回答があった。職員の中で、否定的回答が増加したのが、項目15の「学校内で各分掌などの組織内連携が円滑に行われ、うまく機能している」で、昨年度よりも肯定的回答が7%減り、85%になった。

学校教育自己診断について、今回は実施状況と集計結果＝数値報告をいたしました。この結果を受けて、校内の各パートで今後、分析・検討を進め、肯定的評価が高かったところはさらに維持向上を図り、肯定的評価の低かったところは、改善と工夫に努めていく。

第3回目の学校運営協議会では、分析・検討をした結果について報告する予定である。

（委員より）

・全体的に数値が上がっているが、羽曳野支援として何かされているのであればお聞きしたい。

・学校見学の際に美術室で見せていただいた窯を使って、今後小学校との交流をお願いしたい。

・何よりも大切なことは、子どもたちが学校に楽しく登校するということ。羽曳野支援に在籍している子どもはいろんな背景も持った子もいると思うが、そのような背景を持ちながらもこれだけの割合で学校に行くということに楽しみを感じている、授業についても個々にあったものを提供しているということは、子どもたちの示す数値がそれを如実に表していると思う。キャリア支援については、子どものうちから意識の中に残るかとはともかくとして無意識の中にも学校で学んだことが何となく残るということが大切と思う。その点で子どもたちの答えが「4」というのはまだ数値が上がってきていないということであったが、先生方がきっちり対応されているというところの結果が子どもたちに浸透していると読み取れる。ま

た、短期間で目標達成できるものではないと思うので今後も継続して取り組んでほしい。

- ・特別支援教育、本来の教育、そして細やかな支援が（羽曳野支援学校では）行われている。
- ・子どもたちは原籍校では得られない心地よさが羽曳野支援の教員とのやり取りの中で感じているということが見られるのでそれを大事にしてほしい。そして在籍が長くなって教員とのキャリア教育についてのやり取りが積み上がると夢や職業の話につながっていくのではないかと思う。
- ・回収率を教えてほしい。
- ・同じ項目でも対象者によって回答結果にずれがあるのは羽曳野支援学校としては丁寧な関わりが行われているけれども十分に伝わっていない状況もあるかもしれない。その点についても分析されたことをお話しいただきたい。

②これまでの活動の様子について

・オンライン校外学習（天王寺動物園）

昨年の反省を生かし、間延びしないように現地での様子は事前に撮影し編集したものを配信、クイズは生配信という形で実施した。

・オンライン修学旅行（沖縄、国立民俗学博物館）

小学6年生、中学3年生を対象に実施。

午前は沖縄の工房にオンラインでつなぎ実施。沖縄に関係するクイズに答えたり、工房の方に教えていただきながらシーサーの絵付け体験に参加した。

午後は国立民俗学博物館とオンラインでつなぎ、職員の方に説明していただいた。

・各分教室の様子

（委員より）

- ・オンライン校外学習やオンライン修学旅行に参加した後の子どもたちの声がどんなであったか聞かせてほしい
→クイズを出す準備の段階から生き生きしていた。「～がおもしろかった」「クイズ～問正解した」等の前向きな感想が多かった。
- ・子どもたちが能動的に参加できる仕掛けをたくさん作っている。ちゃんとした体験として成立しているのがすごいと思う。
- ・オンラインでも実体験ができるということで、子どもたちが生き生きしているのが感じられた。
- ・10年ほど前は直接体験ができないということが病弱教育の大きい課題であったが、そのあたりが技術によってクリアできるようになってきた。双方向のやり取りがオンラインでも重視されていることは素晴らしい。
- ・修学旅行を「オンラインでしか行けなかった」と思うかもしれないが、このような取り組みをされると「オンラインでも行けた」「オンラインだからこそ行けた」という風に思えるかもしれない。

